

次に、女性の経験を生かした活躍の場の創出について質問します。

人間やシャチなど一部の哺乳類を除き、多くの生物は繁殖能力を失う時期と寿命が比較的近いということを御存じでしょうか。つまり、子孫を残すという役割を終える頃には、その生物としての寿命もまた終わりに近づいていくということです。しかし、人間の女性は違います。閉経後もなお数十年という長い人生が続きます。なぜ人間はそのような進化を遂げたのか、生物学の世界では様々な研究や仮説がありますが、その一つとして、子や孫の世代を支え、知識や経験、生きる知恵や文化を継承し、集団全体の生存率を高める役割を担ってきたのではないかという考え方があります。実際、人間と同様に、閉経後も長く生きることので知られるシャチの群れでは、父や母が狩りに出ている間、高齢の雌、つまりおばあちゃんが群れに残り、子供たちの世話をしながら、餌の探し方や海域の変化、危険の回避方法など、生きるための知恵や文化を若い世代へ伝え、群れ全体の生存率を高めているそうです。もちろん人間社会を単純に生物学だけで説明することはできません。しかし、子育てが少し落ち着いてきた女性たちから、若い人の役に立ちたい、自分の経験を生かしたい、子育て中のお母さんを応援したいという声を本当に多く耳にします。こうした思いは、社会にとって大変貴重な資源だと思っています。

ところが、現在の社会では、どれだけ利益を生み出せるか、どれだけ働けるか、どれだけ成果を出せるかといった尺度で評価されることが多く、女性たちが長い時間をかけて培ってきた人を育てる力、支える力、人と人をつなぐ力など、社会の持続性を支える力は十分に評価されているとは言えません。しかし、本当に何度も繰り返しになりますが、効率化や情報処理をAIが担う時代だからこそ、人間は人間にしかできない役割に、より力を注いでいく時代になるのではないのでしょうか。例えば、美容室やネイルサロン、エステサロンなどは、単なるサービス提供の場を超えて、子育て中の母親たちが安心して雑談できる貴重な場にもなっているようです。定期的に通う中で、施術者が人柄や近況、経緯を理解してくれている一方で、家族や友人、専門職ほど近過ぎず、踏み込まれ過ぎない、その絶妙な距離感だからこそ、お母さんたちは本音や弱音、愚痴をついぽろっとこぼしてしまうようで、実際に私も美容業に携わる方々から、お母さんたちの悩みや疑問、リアルな声をつないでいただき、それを基に質問や提案を行ってきました。私は、美容サロンをはじめとした地域の事業者の皆さんが持つ対話力や地域とのつながりには、子育て支援や孤立予防、地域課題の早期発見に生かせる大きな可能性があると感じています。そして、それは支援を受ける側だけのためではありません。支援する側にとっても、誰かの役に立てること、経験を生かせること、社会とのつながりを持ち続けられることは、生きがいや自己有用感につながり、社会的健康の向上にもつながるのではないのでしょうか。私は、このような女性たちが本来持っている力や本能的な欲求に即した活躍の場を地域の中に増やしていくことも、これからの地域づくりや男女共同参画において非常に

重要な視点だと考えます。

そこで、伺います。

子育て経験の中には、マネジメント能力、対話力、危機管理能力、コミュニティ形成能力などに加え、常に変化する状況の中で、複数の課題を同時に調整しながら最適解を探るマルチタスク能力など社会や組織運営に生かせる能力が数多く含まれていると感じています。しかし、現状では、それらの能力が十分に評価されたり、可視化されたりしているとは言い難い状況です。

本市として、子育てによって培われた能力や経験を可視化し、地域活動や就労、リーダー育成などへ生かしていく取組についてどのように考えているのか、伺います。

また、子育て中の母親たちが、安心して本音を話せる場にもなっている美容サロンをはじめとした民間事業者が持つ対話の力や地域との接点を、子育て支援や孤立予防、地域課題の早期発見などへ生かしていく可能性についてどのように考えているのか、伺います。

このような店舗を子育てサポーター店のような形で緩やかにつなぎ、必要な相談先の情報共有や現場で感じる課題のフィードバックを受ける仕組みも、地域全体で子育てを支えると同時に、女性の経験を生かした活躍の場の創出につながるのではないかと考えていますが、本市の見解をお聞かせください。

○議長（藤田誠一） 答弁を求めます。山崎福祉部こども局長。

○福祉部こども局長（山崎千織）

（登壇）女性の経験を生かした活躍の場の創出についてお答えいたします。

子育てによって培われた能力や経験を可視化し、地域活動や就労、リーダー育成などへ生かしていく取組についてでございます。

子育ての経験のほか、地域活動や就労を通じて得た能力や経験値といったものを評価、可視化することは容易ではございませんが、市では男女が共に生き生きと暮らせる社会づくりを推進するリーダーを育成するにいはま女性ネットワーク事業や子育て支援ボランティア養成講座、ファミリーサポート事業の提供会員の登録や研修などを行っております。市民の皆さんが身につけた様々な能力や経験は、個人の自己実現、地域の担い手不足の解消、多様な人材の活躍促進において重要であると認識いたしております。

次に、民間事業者が持つ対話の力や地域との接点を子育て支援などに生かしていく可能性についてでございます。

地域の事業者の皆さんが持つ対話力や地域とのつながりは、地域で生活する方々の孤立予防や課題の早期発見に非常に大きな力があると考えております。その上で、安心して本音を語ることができる場である民間事業者の力を子育て支援などに生かしていくためには、無理なく行政と連携できる環境と仕組みづくりが必要であると認識いたしております。

次に、このような店舗を子育てサポーター店のような形でつなぐ仕組みについてでございます。

民間事業者の皆さんと行政をつなげる仕組みといたしまして、まずは子供や子育てに関する相談窓口の周知を図るため、必要な相談先の情報源となる子育て支援に関する冊子の設置などに御協力いただける事業者をホームページなどで募集し、子育て

てサポーター店として位置づけ、ウェブアンケートフォームの活用などにより、事業者が利用者から感じ取った課題やニーズの情報提供がしやすい仕組みなどの検討を行ってまいりたいと考えております。

若い人たちの役に立ちたい、子育てのお母さんを応援したいという方々にとって、こうした取組が、女性の経験を生かした活躍の場の創出につながるものと考えております。引き続き、地域で支え合い、子供や子育て家庭に優しい町の実現に向けた環境づくりと子育て世帯の実態に即した支援の充実に努めてまいります。

○議長（藤田誠一） 野田明里議員。

○４番（野田明里）（登壇） 前向きな御答弁ありがとうございます。子育てが少し落ち着いてから、自分が子育てで得た経験を生かして活躍できる社会であれば、子育て真っ最中のお母さんたちは、安心して子育てに専念できるのではないかとと思います。女性の持つ自分の経験を人の役に立つことに使いたいという思いを上手につないでくださることを期待しております。